

水と生命の未来を守る 「天然水の森」

天然水にみる環境経営

サントリーグループは、自然の恵みに支えられている企業として、「環境負荷低減」と「自然環境の保全・再生」を軸に環境活動を積極的に展開しています。その象徴ともいえる「サントリー天然水」を例に、環境負荷低減での特徴的な取り組みやサントリー「天然水の森」における自然との共生活動について紹介します。「サントリー天然水」の源は、清らかな水を育み、さまざまな生命が満ちあふれる「天然水の森」。サントリーは、「天然水の森」の整備活動を通じて、豊かな森の生態系を保全・再生し、自然との共生を実現していきます。

ペットボトルに 植物由来の原料を使用

「サントリー天然水」は、「未来へ森を贈ろう。Gift!」を掲げてリニューアルしました。同商品は、ペットボトルにもさまざまな環境配慮がなされています。

従来のペットボトルの原料はすべて石油由来のものでしたが、環境負荷の少ない植物由来原料を30%使用したボトルを独自開発し、550mlペットボトルに採用。また、軽量化の実現により、石油由来原料の使用量を一本あたり約4割削減することができました。

貴重な地下水は、もとをたどれば森で生まれます

「地下水を生み出す豊かな森を育むために」

「サントリー天然水」に使用する



サントリー天然水南アルプス

良質な地下水が生まれるのは、深い森の中です。森に降った雨や雪は、地中にしみこみ、さまざまな地層に磨かれることで、清冽な地下水になります。

サントリーグループは、商品の製造段階で多くの地下水を使用することから、工場で汲み上げる量を上回る地下水を生み出す、豊かな森を育む責任があると考えています。そこで工場の水源涵養エリアの森にサントリーが自ら全活動を行う領域を設定し、その森を「天然水の森」と名づけ、地下水を育む森を整備していきます。

現在、「天然水の森」の総面積は、13都府県17カ所で7,600ha超となり、目標としていた7,000haに達しています。現在、大学など研究機関とともに、各地の森ごとに整備計画を作成、より充実した活動に取り組んでいます。



天然水の森

山に降った雨や雪を森が受けとめる
山に降った雨や雪を豊かな森が受けとめ、水がゆつくりと地中にしみこんでいきます。

地中にしみこんだ水が地層に磨かれる
地層という自然のろ過装置をくぐり抜けることによって、澄み切った地下水に生まれ変わります。

長い歳月をかけて清冽な地下水に
雨水が地下深くを通って、工場の深井戸にたどりつくまでには、およそ20年以上の歳月がかかります。

ふかふかの土壌が 地下水や生態系の基盤

水源涵養活動で最も大切なのは、森の土壌を守り育てること。

この土壌を失った森では、地面に水がしみこみにくくなり、地下水を育む力が失われていきます。ふかふかの土壌をつくるのは、森の草木や動物・微生物などの多様な生物です。

その生態系全体を守るため、多様な分野の専門家や地域の方々とともに、さまざまな研究や整備に取り組んでいます。ふかふかの土壌は、たつぷり積もったふかふかの土が、雨をやさしく受けとめ、スポンジのように蓄えてくれるからこそ、雨水は地中にしみこむことができます。



サントリーの愛鳥活動

「豊かな森は、多様な生き物を育みます」

森の生態系全体の健全度を計る1つのバロメーターが、自然環境の変化に敏感な「野鳥」です。特に生態系ピラミッドの頂点に位置する猛禽類は、環境が少しでも悪化すると姿を消してしまいます。なぜなら猛禽類が生きていくためには餌となる小動物や、昆虫などが生息できる環境が必要だからです。

猛禽類が住む森は、生態系全体が健全で、豊かな土壌も守られている森です。希少なクマタカなどの猛禽類を守るだけでなく、彼らが住める環境全体を守ること。

それこそが、鳥たちから学んだ自然との共生という考え方です。

サントリーグループでは、「天然水の森」における野鳥にフォーカスした生態系保全活動をはじめ、広く野鳥保護活動に対する助成なども行っています。

サントリー次世代環境教育 「水育（みずいく）」

未来を担う子どもたちに水を育む自然の大切さを伝える
独自プログラム

「水育」は、子どもたちに水の大切さ、水を育む自然や森の大切さを伝えるため、「サントリー天然水」のふるさとで開催される自然体験教室「森と水の学校」と、小学校で行われる「出張授業」を2つの大きな柱として活動しています。

サントリーグループは、今後も「環境負荷低減」と「自然環境の保全・再生」の両面から環境経営を強化していきます。